

Title	紙業界における安全安心システムの構築
Sub Title	Development of system that brews safety culture in paper mill
Author	小林, 永樹(Kobayashi, Eiki) 高野, 研一(Takano, Kenichi)
Publisher	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
Publication year	2011
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	<p>産業界に於いては,かねてより労働災害撲滅を目指した安全活動が進められてきたが,残念なことにこの数年間,災害件数の減少率は鈍化している.平成12年に労働規準局より安全文化の提言がなされ,労働災害撲滅を目指して官民が一体となった運動が推進されてきた.こうした安全に対する気運の高まりにも関わらず,事故件数の減少率は改善されていない.また昨今の事故原因調査結果では,人的要因に関するものが8割を占めている.安全文化の提言以来既に10年が経過しているが,気運は高まりつつあるも,安全文化の定着は期待したレベルには達していないと考えられる.</p> <p>安全文化の定着は,経営層と従業員層とが有機的に機能し合うことで実現されるものであるが,その導入方法や可否に関しては,企業自身に裁量権がまかされているケースが多いようである.言い換えれば,経営マネジメントの在り方や運営方針に大きく左右されるケースがあるということであり,それ故,過去からの習慣や風土との関連から新しい安全の仕組みや考え方が容易に定着化することが出来ないのが現状であろう.</p> <p>本研究では,生産現場における労働災害を撲滅することを目指し,製紙産業を研究モデルとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業員の安全文化に対するモチベーションの改善方法や安全文化醸成に効果が期待出来る安全意識診断方法を検討する.</li> <li>・ 習慣や風土は心理的(感覚的)要素が多く含まれるため,心的手法での改善は難しいと判断し,事故事例を用い,具体的なヒューマンエラーに対し改善施策を提案する.</li> <li>・ ヒューマンエラーによる労働災害を撲滅する方法として安全の8軸を用い,企業特性を考慮した安全文化の構築方法を提案するものである.</li> </ul> <p>併せて,本研究は,個々の事故事例から得られた情報や知見を,企業毎にどの様に活用し,事故防止対策案を構築すべきかを組織運営面と業務運営面の観点から提案する.</p> <p>また,安全文化に関する問題点の抽出方法としては,アンケート調査によるマクロ観点と根本原因分析によるミクロ観点から要因を抽出し,安全の8軸を用いた安全意識診断の有効性を確認する.更にインタビュー調査を加えることで多視点から問題点を具体化し,安全文化定着効果が期待できる安全意識診断方法についても紹介する.</p>
Notes	修士学位論文. 2011年度システムデザイン・マネジメント学 第62号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002011-0007">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002011-0007</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文

2011 年度

紙業界における安全安心  
システムの構築

小林 永樹

(学籍番号：80934575)

指導教員 高野 研一

2011 年 9 月

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科  
システムデザイン・マネジメント専攻

# 論 文 要 旨

学籍番号	80934575	氏 名	小林 永樹
論文題目： 紙業界における安全安心システムの構築			
<p>(内容の要旨)</p> <p>産業界に於いては、かねてより労働災害撲滅を目指した安全活動が進められてきたが、残念なことにこの数年間、災害件数の減少率は鈍化している。</p> <p>平成12年に労働規準局より安全文化の提言がなされ、労働災害撲滅を目指して官民が一体となった運動が推進されてきた。こうした安全に対する気運の高まりにも関わらず、事故件数の減少率は改善されていない。また昨今の事故原因調査結果では、人的要因に関するものが8割を占めている。安全文化の提言以来既に10年が経過しているが、気運は高まりつつあるも、安全文化の定着は期待したレベルには達していないと考えられる。</p> <p>安全文化の定着は、経営層と従業員層とが有機的に機能し合うことで実現されるものであるが、その導入方法や可否に関しては、企業自身に裁量権がまかされているケースが多いようである。言い換えれば、経営マネジメントの在り方や運営方針に大きく左右されるケースがあるということであり、それ故、過去からの習慣や風土との関連から新しい安全の仕組みや考え方が容易に定着化することが出来ないのが現状であろう。</p> <p>本研究では、生産現場における労働災害を撲滅することを目指し、製紙産業を研究モデルとして</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・作業員の安全文化に対するモチベーションの改善方法や安全文化醸成に効果が期待出来る安全意識診断方法を検討する。</li><li>・習慣や風土は心理的(感覚的)要素が多く含まれるため、心的手法での改善は難しいと判断し、事故事例を用い、具体的なヒューマンエラーに対し改善施策を提案する。</li><li>・ヒューマンエラーによる労働災害を撲滅する方法として安全の8軸を用い、企業特性を考慮した安全文化の構築方法を提案するものである。</li></ul> <p>併せて、本研究は、個々の事故事例から得られた情報や知見を、企業毎にどの様に活用し、事故防止対策案を構築すべきかを組織運営面と業務運営面の観点から提案する。</p> <p>また、安全文化に関する問題点の抽出方法としては、アンケート調査によるマクロ観点と根本原因分析によるミクロ観点から要因を抽出し、安全の8軸を用いた安全意識診断の有効性を確認する。更にインタビュー調査を加えることで多視点から問題点を具体化し、安全文化定着効果が期待できる安全意識診断方法についても紹介する。</p>			
キーワード (5語) 製紙業, 安全文化, アンケート調査, 根本原因分析, インタビュー調査			

## SUMMARY OF MASTER'S DISSERTATION

Student Identification Number	80934575	Name	Eiki Kobayashi
Title <b>Development of System that Brews Safety Culture in Paper Mill.</b>			
Abstract <p>In 2000, the Labor Standard Bureau in Japan released a proposal concerning the safety culture in industries, and the officials and the private sectors started working hand in hand to exterminate workmen's accident. Since then, 10years has passed and the consensus on establishing the safety culture has been glowing surely. However, the effort has not been reached up to the level to be expected. The decreasing rate of workmen's accidents has been slowing down. The recent research reports that 80 percent of the cause in accidents at production site is still the human factor.</p> <p>The establishment of the safety culture should be materialized by the organic functioning between the management class and the workmen class. Discretion how to introduce the safety culture into a company is normally in a company's hands and each company has own characteristics, traditional customs, history and management policy. This seems to hinder the establishment of to the new safety culture firmly in a company.</p> <p>In this research, for exterminate workmen's accidents at production site and for fermenting the safety culture there, the method of improving workmen's motivation to the safety culture and the method of diagnostic check on workmen's safety consciousness are investigated. To utilize psychological technique does not seem appropriate method for improving workmen's consciousness which is affected by various individual mental factors like habit, climate and etc. The concrete counter measures are proposed against human errors caused in the actual workmen's accidents. With utilizing the eight axes of safety as a method for exterminating workmen's accidents, this research proposes the method of creating the safety culture in a company with the consideration on a company's characteristics.</p> <p>This research proposes how to utilize information and knowledge obtained from deep investigation on workmen's accidents and how to create the counter measure system, both in the company organization and the business management point of view.</p> <p>For the investigation on problems, this research used the questionnaire survey, interview, analysis on fundamental cause and confirmation on effectiveness of the eight axes of safety.</p>			
Key Word(5 words) Pulp and Paper Industries, Safety Culture, Questionnaire Survey, Interview, Analysis on Fundamental Cause			